



西サハラ



自転車で世界を巡り、占領地と難民キャンプの現状を訴える
スウェーデンの人権活動家・東京講演会

日時：2023年7月29日（土）18:00-20:00（17:40 開場）
場所：文京シビックホール会議室 1・2（下に地図あり）
無料・日本語逐次通訳付

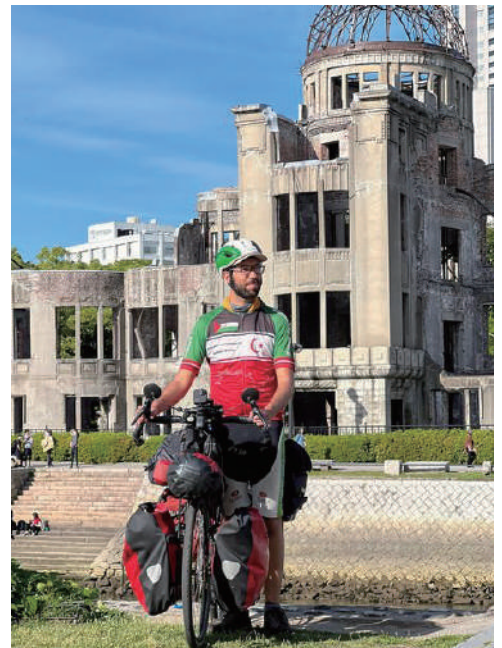


サナ・ゴトビさん

イラン系クルド人を両親にスウェーデンに生まれる。イエテボリ市議会に最年少議員として当選(2014-18)、移民・難民・DV問題などに取り組んだ。イエテボリ大学卒業。民主主義を進めるNGOを設立。Solidarity Risingを設立。サハラウィの難民キャンプを訪問。

ベンジャミン・ラドラさん

音楽学校を出て、ドラム・パーカッション演奏者になる。パレスチナ問題を訴えてパレスチナまで4,800km、パレスチナの子どもの義装具のために2,000km、スウェーデン国内の難民のために500kmを歩いた。Solidarity Risingを設立。西サハラの占領地と難民キャンプを訪問。



西サハラとは？

<アフリカ最後の植民地>と呼ばれる西サハラは1975年、スペインからの独立過程でモロッコに侵略され、以来その80%が占領下にあります。国連は1991年に自決権行使のための住民投票の実施を決めましたが、モロッコのサボタージュと大国の思惑によって実現していません。アルジェリアの難民キャンプに拠点を置くサハラウィ（西サハラの人びと）は「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言し、モロッコの占領下に暮らすサハラウィは非暴力の抵抗運動を続けています。モロッコは独立運動を厳しく弾圧し、モロッコ人を移住させてサハラウィを周縁化しています。そして、西サハラで不法に採掘するリン鉱石や西サハラの海でとれるタコを日本を含む世界に輸出しているのです。国際社会は住民投票実施の約束を果たさなければなりません。そのためには、市民による国際的な世論の喚起が必要です。



プログラム

- 18:00 開会挨拶 箱山富美子
(元藤女子大教授、元 UNICEF 職員)
- 18:15 サナ&ベンジャミンさん講演
- 19:20 質疑応答
- 19:50 閉会挨拶 勝俣誠
(明治学院大名教授)
- 司会・箱山富美子
- 通訳・松野明久 (大阪大名教授)

主催・西サハラ友の会

後援

特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

以下のフォームからお申し込み下さい。

<https://forms.gle/Xn1th6RDCCGzCpGz8>

問合せ先：西サハラ友の会事務局

info@fwsjp.org



申し込みフォームの QR コード